

北海道高文連70周年記念大会

第49回 放送コンテスト 開催要項

- 1 目的 高校生の豊かな人間性の育成と校内放送活動の健全な発展を目指し、日ごろの努力の成果を発表する。
- 2 趣意 全道各支部から推薦された作品について公開審査を実施し、次年度の全国高等学校総合文化祭参加校を選考する。
- 3 主催 北海道高等学校文化連盟
- 4 後援 日本放送作家協会北海道支部
- 5 主管 北海道高等学校文化連盟放送専門部
- 6 当番校 札幌龍谷学園高等学校
〒060-0004 札幌市中央区北4条西19丁目1-2 TEL 011-631-4386 FAX 011-614-4775
- 7 会場 江別市民会館
〒067-0074 江別市高砂6号 TEL 011-383-6446 FAX 011-381-1077
- 8 期日 令和8年11月12日（木）総合受付・開会式・公開抽選会・CM部門・専門委員会
令和8年11月13日（金）部門審査・講評・結果発表・閉会式
- 9 日程 令和8年11月12日（木）
13:30~14:00 総合受付
14:00~15:00 公開抽選会
15:00~15:30 総文祭報告
15:30~16:00 開会式
16:00~18:00 CM部門発表・投票（ラジオCM・テレビCM）
13:00~15:00 第2回専門委員会
令和8年11月13日（金）
9:00~ 9:30 審査員打ち合わせ
9:30~16:00 部門審査（アナウンス・朗読・オーディオメッセージ・ビデオメッセージ）
16:30~17:30 結果発表、表彰、閉会式
- 10 コンテストの各部門
 - (1) アナウンス
 - (2) 朗読
 - (3) オーディオメッセージ（AM）
 - (4) ビデオメッセージ（VM）
 - (5) CM（テレビ・ラジオ）
- 11 参加資格
 - (1) 令和8年度北海道高等学校文化連盟に加盟している学校および中等教育学校の後期課程の第1学年・第2学年の生徒であること。
 - (2) 特例として、上記（1）に定める生徒以外で、北海道高等学校文化連盟別途規定による大会参加資格を満たした生徒の大会参加を認める。
 - (3) 結果を放送専門部公式HPに掲載するため、学校名・個人名の掲載を許諾する者。
 - (4) アナウンス部門・朗読部門は、どちらか1部門とし、番組部門は、各部門につき1作品に限る。
 - (5) 各番組部門は、高校生の創作に限る。また他のコンクール等に参加した作品の出品は認めない。

※ 全道大会の当番校は、地区の参加数・順位に関係なく各部門に1作品または1名が参加できる。
ただし、当番校の作品または生徒は必ず地区予選に参加すること。また、地区予選において当番校が全道大会に参加できる順位に入った場合は他の繰上げ参加はできない。

 - (6) 見学旅行などの学校行事（考査は除く）への参加の場合は、データでの参加を認める。

12 マスコミ報道に関する注意事項

高校放送局の活動が、新聞・テレビ等のマスメディアで報道されることは、高校生の放送活動に対する社会の理解や関心を高めることにつながり、校内放送活動の発展に寄与するものである。しかし、一方で、大会で審査を受ける前の作品がテレビやラジオで放送され、多くの人の目に触れることは、大会会場での新鮮な感動を薄れさせ、審査に影響を与えてしまうことも否めない。このことをふまえ、参加校は以下のことに留意する。

(1) 地区大会前

- a. 地区大会前にテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることは差し控える。

(2) 地区大会後、全道大会前

- a. 地区大会後に、ローカルニュースなどで作品の一部または全部が報道されることはかまわない。この場合、該当校は、北海道高文連放送専門委員長に報告することとする。
- b. 全道大会前に、全道向けのテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることは差し控える。

(3) 全道大会後、全国大会前

- a. 全道大会後に、全道向けのテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることはかまわない。この場合、該当校は、北海道高文連放送専門委員長に報告することとする。

(4) インターネットサイトへの掲載について

- a. 各地区や参加校・道内のマスメディアや道内のローカルニュースサイトなどが、地区大会・全道大会の結果や順位を掲載することはかまわない。ただし、学校名・氏名などを掲載する場合は、当該校や当該生徒の許諾を得て行うこと。また、全道大会終了までは、作品のタイトルがサイトに掲載されることは避けること。
- b. 全国大会終了まで、参加作品そのもののネット配信は、作品の一部であっても差し控える。全国大会後であっても、ネット配信する際は、取材先や著作権者への許諾を必ず得る。この場合、該当校は、北海道高文連放送専門委員長に報告することとする。

(5) 報道機関・関係機関への情報提供について

- a. 北海道高等学校文化連放送専門部は、報道機関・高文連などの関係機関に本大会の参加者の学校名・氏名・作品名および入賞順位、大会中の写真などの情報を提供する。

13 参加費 アナウンス・朗読 1名 5,000円

オーディオメッセージ・ビデオメッセージ 1作品 6,000円 CM部門 無料

14 参加規定 各部門の規程は第51回全国高等学校総合文化祭（石川大会 8/4～8/5）に準拠します。

(1) アナウンス部門

- ア あなたの住む地域に関する話題を全国の高校生に伝える内容のオリジナルの原稿とする。
- イ 発表時は「番号・氏名・本文」を読む。
- ウ 計時する時間は、氏名を含めて**1分30秒以内**とする。（番号は計時しない）
（総文祭の発表では番号はなく、**学校名**も含めて計時します）
- エ 11（6）により、当日会場に来られない場合はデータ参加を認める。データの規格は、オーディオメッセージ部門に準ずる。
- オ NHK杯高校放送コンテストの様式に準じて、原稿4部を作成し**初日の抽選会の後**に提出すること。
- カ ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。

(2) 朗読部門

- ア あなたの住む地域にゆかりのある作家または作品の中から原文のままを一部選んで原稿とする。
- イ 発表時は、「番号・氏名、作者名、作品名、本文」を読む。
- ウ 計時する時間は、**作品の本文のみの部分で1分45秒以内**とする。
- エ 11（6）により、当日会場に来られない場合はデータ参加を認める。データの規格は、オーディオメッセージ部門に準ずる。
- オ NHK杯高校放送コンテストの様式に準じて、原稿4部を作成し**初日の抽選会の後**に提出すること。
- カ ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。

(3) オーディオメッセージ部門

- ア あなたの住む地域に関する話題を取り上げた作品とする。
- イ ドキュメンタリー形式・ドラマ形式など手法は問わない。
- ウ ステレオ録音による未発表のオリジナルの作品であること。

- エ 作品は**4分以内**とし、作品の再生操作は運営担当が行う（参加校の代表者は音量の調整ができる）。
- オ 作品の終わりにクレジットコール（制作は〇〇高校でした）を入れること。
- カ 作品は**事前にデータで提出し、その後の変更はできない。データの形式はMP3、提出方法は別記**
- キ NHK杯高校放送コンテストの様式に準じて、番組進行表3部、番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページを7部作成し、**初日の抽選会の後**に提出すること。
- ク ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。

(4) ビデオメッセージ部門

- ア あなたの住む地域に関する話題を取り上げた作品とする。
- イ ビデオカメラで撮影した自校の未発表オリジナル作品であること。
- ウ 作品の前後に5秒のテストパターン（静止画：形式は自由）を録画すること。
- エ 作品は**4分30秒以内**とし、作品の再生操作は運営担当が行う（参加校の代表者は音量の調整ができる）。
- オ 作品は**事前にデータで提出し、その後の変更はできない。データの形式はMP4（NTSC規格・アスペクト比16:9・H.264コーデック・HD画質以下）、提出方法は別記**
- カ NHK杯高校放送コンテストの様式に準じて、番組進行表3部、番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページを7部作成し、**初日の抽選会の後**に提出すること。
- キ ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。

(5) CM部門（全道大会独自部門）

- ア 参加資格は、各地区の全道大会出場校とし、総合賞に加えないエキシビション部門とする。
- イ 全道大会出場校は、CM部門（テレビCM・ラジオCMのいずれか）にエントリーできる。
- ウ 発表時間は30秒以内とする。
- エ テレビCMは作品の前後に学校名がわかる3秒のテストパターン（静止画：形式は自由）、ラジオCMは作品の前後に学校名を入れること。
- オ テレビCM部門とラジオCM部門のデータ形式はそれぞれの番組部門に準ずる、提出方法は別記。
- カ CM部門への参加を希望する学校は、全道大会へのエントリーの際に、テレビCM部門・ラジオCM部門のどちらに参加するか申し出る。
- キ テーマは「**あなたの住む地域の何かを紹介する**」とし、順位は各校からの投票により決定する。
- ク CM部門という名称だが、商業広告としてのコマーシャルフィルムやラジオ広告を作ることを目的としたものではない。
- ケ ラジオCM・テレビCMとも大会参加校の生徒による投票によりそれぞれ3位まで決定し表彰する。
・学校単位で、自校以外で良かったと思う3作品を選び投票する。

(6) 全部門共通

- ア 「あなたの住む地域」について
参加規定の「あなたの住む地域」とは、「自分が通う高校の所在する地域」を意味し、その最大範囲は北海道内までとする。
- イ 「地域に関する話題」について
全国高等学校総合文化祭の放送部門は、都道府県ごとに発表が行われるなど、お国自慢の文化祭的な要素が強い大会であり、「地域」がキーワードとなっている。アナウンス原稿や番組を制作する際は、単なる自校ニュースになることは避け、地域に目を向けてテーマを設定するよう心がけたい。
- ウ 全部門共通
全ての「著作権」は出場校で必ず処理すること。著作権処理の内容は、NHK杯高校放送コンテストの様式に準じて、番組進行表に記載すること。

【いわゆる「著作権フリー素材」の扱いについて】

1. NHK杯高校放送コンテストで許諾書の添付が不要の素材（（株）アーキーの「School Lifeシリーズ」/（有）EXインダストリーの「著作権フリー音楽CD」/エンドレスエコーの「著作権フリーCD」/サウンドファクトリーの「著作権フリーCD」/NHKクリエイティブライブラリー）については、本大会でも**許諾書添付は不要**です。
2. 本大会では、インターネット上の著作権フリー素材を使用しても構いませんが、**著作権の手続き不要の旨（使用条件）が記載された文面のコピーを添付してください。**（添付するコピーはA4縦とし、用紙の右上に著作処理番号を朱書きする。）その他の著作権フリー素材（CDなど）の処理は、NHK杯高校放送コンテストに準じて行ってください。

15 審査基準

(1) アナウンス部門

ア 審査の視点

a.内容 (ア) 素材の選び方は適当であるか。

(イ) 文章表現は適当であるか。

b.技術 (ア) 自然な発声で聞き手に伝わるようにアナウンスしているか。

・発声・発音・マイクの使い方

(イ) 正しく意味を伝える表現ができているか。

・内容把握・イントネーション・言葉の立て方（プロミネンス）・アクセント

(ウ) 間（ポーズ）は適切か。

イ 点数は100点法の1点刻みとし、a.bの項に留意して総合的に採点する。

ウ 各地区代表審査員6名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り4名の審査点と専門家1名の審査点を合計したもので順位を決定する。

(2) 朗読部門

ア 審査の視点

a.内容 (ア) 作品の選定は適当であるか。

(イ) 抽出部分は適切か。

b.技術 (ア) 内容表現上、声の出し方や言葉の運びが自然で適切か。

・発声・発音・マイクの使い方

(イ) 正しく意味を伝える表現ができているか。

・内容把握・イントネーション・言葉の立て方（プロミネンス）・アクセント

(ウ) 間（ポーズ）は適切か。

イ 点数は100点法の1点刻みとし、a.bの項に留意して総合的に採点する。

ウ 各地区代表審査員6名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り4名の審査点と専門家1名の審査点を合計したもので順位を決定する。

(3) オーディオメッセージ部門

ア 審査の視点

a.企画・内容

(ア) テーマ「地域に関する話題」を理解し、効果的に表現しているか。

(イ) ラジオ（オーディオ）の特性を活かした作品になっているか。

b.制作技術

(ア) 構成・演出

(イ) 取材の方法や努力

(ウ) ナレーション

(エ) 録音の技術、編集の技術、音楽や効果音の使い方など。

イ 点数は100点法の1点刻みとし、a.bの項に留意して総合的に採点する。

ウ 各地区代表審査員6名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り4名の審査点と専門家1名の審査点を合計したもので順位を決定する。

(4) ビデオメッセージ部門

ア 審査の視点

a.企画・内容

(ア) テーマ「地域に関する話題」を理解し、効果的に表現しているか。

b.制作技術

(ア) 構成・演出

(イ) 取材の方法や努力

(ウ) ナレーション

(エ) 録音の技術、編集の技術、音楽や効果音の使い方など。

イ 点数は100点法の1点刻みとし、a.bの項に留意して総合的に採点する。

ウ 各地区代表審査員6名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り4名の審査点と専門家1名の審査点を合計したもので順位を決定する。

16 全道大会の推薦基準

アナウンス・朗読部門		アナウンス奨励枠		AM・VM部門	
参加人数	推薦人数	参加人数	推薦人数に加算される人数	参加校数	推薦本数
151名以上	19人	61人以上	5人	28校以上	10本
141名～150名	18人			24校以上	9本
131名～140名	17人			19校以上	8本
121名～130名	16人	21人以上	4人	15校以上	7本
111名～120名	15人			11校以上	6本
101名～110名	14人			8校以上	5本
91名～100名	13人	20人以下	3人	5校以上	4本
81名～90名	12人			4校以下	3本
71名～80名	11人				
61名～70名	10人				
51名～60名	9人				
41名～50名	8人				
31名～40名	7人				
21名～30名	6人				
16名～20名	5人				
11名～15名	4人				
10名以下	3人				

【アナウンス奨励枠について】

本コンテストのアナウンス部門は、高校生アナウンサー自らが学校から地域に飛び出し、独自の取材でさまざまな事実を発見し、それを優れた構成力で短い時間内にまとめわかりやすく伝えることで聞く人の心を動かせる魅力的な放送表現の部門である。

北海道高文連放送コンテストでは、より多くの生徒がアナウンスの魅力に触れてくれることを期待して、公開審査初年度の第31回大会よりアナウンス部門の全道推薦人数に奨励枠を継続している。

17 表彰

部門	総合	アナウンス	朗 読	オーディオメッセージ	ビデオメッセージ
表彰数	入賞 3	入賞 5・入選 3 (上位 3 名を全国高総文祭に推薦)	入賞 5・入選 3 (上位 3 名を全国高総文祭に推薦)	入賞 5・入選 3 (1 位校を全国高総文祭に推薦)	入賞 5・入選 3 (上位 2 校を全国高総文祭に推薦)

〔総合賞得点基準〕

	表彰数	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
ア ナ ウ ン ス	8	1 0	9	8	7	6	5	4	3
朗 読	8	1 0	9	8	7	6	5	4	3
オーディオメッセージ	8	2 0	1 8	1 6	1 4	1 2	1 0	8	6
ビデオメッセージ	8	2 0	1 8	1 6	1 4	1 2	1 0	8	6

18 参加申込

- (1) 各地区代表専門委員が後日事務局より送信する「参加申込書」のエクセルデータをメール添付で送付する。
- (2) 送信先 zendo_entry@zendo-hoso.net (公式HPの送信フォームも使用できます)
- (3) 申込期限 令和8年10月27日 (火) 必着

19 参加料

- (1) 地区代表専門委員は地区ごとにまとめ、現金書留で下記住所まで送付するか口座に振り込む。
- (2) 支払期限 令和8年10月27日 (火) 必着

住 所 〒060-0004 札幌市中央区北4条西19丁目1-2
札幌龍谷学園高等学校 当番校事務局 相蘇 孝哉
口 座 「参加申込書」に記載します

※ 提出物一覧

(様式はHPに掲載するものを使うか、NHK杯高校放送コンテストの様式に準じた形で作成してください)

(1) アナウンス・朗読部門

- ・原稿 4部 (抽選会後に提出)

(2) オーディオメッセージ部門

- ・データ MP3形式 (事前に提出)
- ・番組進行表 3部+番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページを7部 (抽選会後に提出)

(3) ビデオメッセージ部門

- ・データ MP4形式、NTSC規格・アスペクト比16:9・H.264コーデック・HD画質以下 (事前に提出)
- ・番組進行表 3部+番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページを7部 (抽選会後に提出)

(4) CM部門

- ・データ ラジオCMはオーディオメッセージ、テレビCMはビデオメッセージに準ずる

※データ提出締め切り 11月7日(土) 17:00 (提出方法は別記)

※11(6)により、データでの審査を希望し抽選会に参加できない場合は、原稿や番組進行表(印刷したもの)の必要数を期限厳守で当番校まで郵送してください。(近隣校に依頼できる場合は、当日受付に提出してもらうことも可能です)

北海道高文連放送コンテスト・全国高等学校総合文化祭に関する申し合わせ事項

1. 北海道高文連放送コンテストの実施要領は、次年度の全国高等学校総合文化祭の要領に準拠する。
2. 北海道高文連放送コンテストの各部門の入賞者(校)を、次年度の全国高等学校総合文化祭の北海道代表として推薦する。
 - (1) アナウンス部門・朗読部門については、上位3人を北海道代表として推薦する。該当者が不参加の場合には、成績順にしたがって繰り上げ推薦をする。
 - (2) オーディオメッセージ部門については、上位1校を北海道代表として推薦する。該当校が不参加の場合には、成績順にしたがって繰り上げ推薦をする。
 - (3) ビデオメッセージ部門については、上位2校を北海道代表として推薦する。該当校が不参加の場合には、成績順にしたがって繰り上げ推薦をする。
 - (4) 各部門の入賞者(校)は、不参加の場合には、当該年度の12月末までに放送専門部事務局まで報告しなければならない。
 - (5) 開催都道府県が新設した部門については、できる限り前年度の北海道高文連放送コンテストで当該部門を開催するが、それが難しい場合は、原則としてオーディオ作品の場合にはオーディオメッセージ部門の次点に入賞した学校を、ビデオ作品の場合にはビデオメッセージ部門の次点に入賞した学校を北海道代表とし推薦する。この場合も、該当校が不参加の場合には、成績順にしたがって繰り上げ推薦をする。
3. 北海道高文連放送コンテストの各部門の審査は、公開審査で行う。
 - (1) アナウンス部門・朗読部門
各地区大会において、生徒は演示による発表参加、または録音物による参加のいずれかを選択し参加する。全道大会は、原則的には演示によっておこなうが、やむをえず録音での参加となる生徒は、原稿と録音物を速やかに作成し、提出すること。
 - (2) オーディオメッセージ部門・ビデオメッセージ部門
各地区大会に出品された作品を手直しする事はできる。ただし、タイトルは参加申込書の通りとする。CM部門については、全道大会に進んだ学校すべてに、参加資格が与えられる。
4. 全国高等学校総合文化祭に、北海道代表として推薦された各部門の入賞者(校)は、次年度の作品搬入期までに、**全部門において全国高等学校総合文化祭放送部門実施要領にしたがって**作品に手を加えてもかまわない。